

みんなあつまれ、あいりんっ子！

そつぎょうせいのためのクリスマス

とき 12月17日(土)10:30～12:00

ところ あいりんようちえん(ホール)

幼稚園にみんなであつまろう

- ♪ なつかしいページェントを思いだそう
- ♪ クリスマスのうた・讃美歌を歌おう
- ♪ マザーグースのみなさんの歌声を楽しもう
- ♪ 久しぶりに会った友達や先生とおしゃべりしよう

みんなで作るクリスマス会です

楽器を合奏しよう

- ・去年と同じページェントのなかの曲です。ピアノ、リコーダーなどのほか、得意の楽器があれば演奏しましょう。
- ・楽譜がない人は取りにきてください。(遠い人にはお届けの方法を相談しましょう。)
- ・練習と打合せは当日の朝だけです。9時30分からはじめます。
- ・担当は園長、仁美先生です。

ページェントをしよう

- ・幼稚園でしたページェントをやります。
- ・やってみたい役を電話などでお知らせください。こちらから役をお願いすることもあるかもしれません。
- ・練習と打合せは当日の朝だけです。9時30分からはじめます。
- ・担当は宮越先生、矢内先生です。

楽器とページェント両方をするのはむずかしいです。どちらかにしましょう。もちろんどちらもやらなくてもいいから、みんなきてくださいね。

1・2年生のお母さん方へお願い

毎年小学校1・2年生のお母さん方に、お茶等の用意をいただいています。お菓子やその他の品物の用意は幼稚園でいたします。当日のお世話についてお願いします。開会30分前においでいただければ助かります。

*クリスマス会後にお茶とお菓子を用意していますが、アレルギーのある方は、対応が難しいため個々にご準備をお願いいたします。

大きい卒業生のおうちの方へ

お子様が就職・結婚等でご実家から転居されている時には、是非、愛隣幼稚園まで連絡先をお知らせください。(Tel.043-251-6395 担当は進藤先生です)

— 今年の園だよりから — 周囲で起こっていること

2016年7月

去年の今頃、帰宅が遅くなった週末の夜、やはり遅く帰ってきた次女と私は夕食をすることにしました。9時になろうかという週末の店で、私たちは若い夫婦が2歳くらいの子どもとやって来るのに出会いました。小学校に入るまで9時前には寝ていた娘には驚きの光景でした。また最近になって、夜遅くまで家族が誰もいない家に一人で居る小学生の話を、複数耳にするようになりました。共働きのご家庭のようで、時には深夜ということもあるようです。私たちのまわりには気付かないところで同様の環境に置かれている子どもたちがたくさん居そうです。一人で留守番ぐらいというには限度を超えています。見方によってはネグレクト（育児放棄）、虐待です。不思議なことがまかり通っています。私も両親は共働きでしたが幸いなことに祖父母が同居していましたし、少なくとも母は夕飯時には帰宅していました。母も父もない夜はありませんでした。時代が変わり、多くの共働き家庭は核家族になりました。そうです、時代は変わったのです。しかし、つい先日こんなことがありました。家庭参加日の振替で月曜休みの日、普段まともな時間に夕飯を作ることが出来ない私が、この日くらいはと娘たちの帰宅に合わせて夕飯を準備していました。初めに帰ってきたのは長女。玄関を開ける音と同時に「いや～しあわせ、しあわせ。明かりが点いてる家に帰って来るのはしあわせだね～。ご飯もあるしさあ。もう今日はひーちゃん（自分のこと、少しふざけてテンションの高い時にこんな言い方をする）ウキウキしながら帰ってきたからね。」と上癪嫌で喋る娘が、まっすぐ私のいる台所へ顔を出しました。「これがいよいよね～。疲れてても元気になる。母さんが家にいるのってやっぱりいいね。」24歳の娘がそんな言葉で嬉しい気持ちを表現していました。24歳の大人になった子ども（私にとって）も、親がいて温かいご飯があって、喋る相手がいる家が嬉しいのです。そう考えれば、小学生の子どもが夜遅くまで一人で家に居るなどということは、子どもの気持ちを考えれば言語道断です。おおよそ“子どもにふさわしい生活”からは程遠い。仕方がない、どうにもならないのだから・・・という声も聞こえてきそうですが、それでいいということにはならないと私は考えています。夜更かしになっている乳児も、ひとりぼっちで居る子どもたちも、みんな大人の都合でそうなっているのです。夜遅く夕食に来ていた家族は冰山の一角。夜更かしをしている子どもたちは少なくありません。本来、親がしなければならぬことは子どもの健康を守ることです。忙しい親たちがしなければならぬことは、子どもをひとりぼっちにしないことです。両親共に働きたいと考える子育て世帯が増え、保育園を大慌てで作りましたが、その子どもたちが就学した後の放課後の居場所や、平日の休みの居場所は整っていません。親が働き方を変えることができなければ、子どもたちは一人にならざるを得ないのでしょう。悲しい現実です。子どもたちの健康や安全が危惧されるどころですが、同じように心の成長が心配です。嬉しい日にも悲しい日にも話を聞いてくれる人がいないとしたら・・・。温かい食事には、作る人の思いが込められています。それを受け取る経験が極端に少ないとしたら・・・。愛され大切にされた子どもは自分を大切にできる事ができるようになり、他人を大切にすることができるようになるとい言葉が、私の頭の中をぐるぐると廻っています。そうか、親が子どもたちの“子どもたちにふさわしい生活”を守るという行為は、「あなたが大切」という子どもたちへのメッセージそのものでもあるのだと、改めて確認しています。

さて、この話は愛隣幼稚園のご家庭の話ではありません。しかし、みなさんの周りで起こっている話です。近所のおばちゃん、おじちゃんとして、ひとりぼっちの子どもを知ることになるかもしれません。知ったからと言って親代わりで面倒をみることは不可能です。でも、せめて知らんぷりはせず、気にかけてほしいと思います。万が一の時には助けてください。地域のおばちゃん、おじちゃんか子どもたちを守ることができるのです。大人たちには子どもたちが“子どもにふさわしい生活”をする権利を守る責任があります。

卒業生のための園だより

クリスマスってなあに

今年も大きくなった愛隣の仲間たちに、この園だよりをお届けする季節となりました。何故、この時期にお届けしているのかといえば、そう！「クリスマス」の嬉しいお知らせをみんなと分かち合いたいと考えているからです。そして、是非、卒業生のクリスマス会にも足を運んでほしいと思っています。卒業したみんなはもちろん、ご家族の皆様もどうぞ遠慮なくいらしてください。お待ちしております。さて、幼稚園では1回目のアドベント礼拝が終わり、みんなで少しずつクリスマスを迎える準備を始めています。憶えていますか？アドベントカレンダー、ページの練習、みんなのろうそくの灯を集めたクリスマス礼拝、きっと一人ひとりの心の中に、幼稚園でのクリスマスが刻まれていることと思います。ところで、“クリスマス”って？“クリスマスの嬉しいお知らせ”って？きっとそんなことはご存知でしょう。そう、イエス様の生まれた日がクリスマス、そしてこのイエス様の誕生こそが皆と分かち合いたい嬉しいお知らせです。・・・でも、イエス様の誕生日は分かるけれど、それが自分にとって嬉しいお知らせかという、それはピンとこないなあ・・・と思っはいませんか。そんなあなたに、この園だよりをお届けします。

幼稚園の1回目のアドベント礼拝の最初はこんなお話が始まります。「神様を知らない人、神様のことを忘れてしまった人が世界中にたくさんになりました。強い人が弱い人を困らせたり、するいことや悪いことをしてお金を儲ける人が増えていきました。強い人は弱い人のことを考えず、困っている人、悲しんでいる人を助ける人もいませんでした。神様にはそれはとても悲しいことでした。それで、何とかして神様のことを知らせ、神様のことを思い出してもらいたいと考え、神様の子ども、イエス様をこの世に生まれさせることにしました。」そうなんです。神様は私たちのためにイエス様をこの世に生まれさせてくださったのです。その出来事は2000年も前の出来事でしたが、2000年経った今を生きる私たちもクリスマスのお話を通してイエス様に出会い、神様に会っています。ですから、イエス様の誕生は私たちのため、あなたのために起こった出来事でもあるのです。では、神様はイエス様を通して私たちにどのようなメッセージを伝えてくださっているのでしょうか。

「わたしは、あなたを愛しています。」イエス様を通して神様が私たちに届けてくださったメッセージは、この一言です。あなたの喜びの日にも、あなたの苦難の日にも私はあなたを愛し、あなたと共にいると神様は私たちに語りかけてくださっています。そのことを神様はどうしても伝えたくてイエス様を私たちの元へ贈られたのです。聖書にはそのイエス様が、喜び人と共に喜び、泣いている人と苦しみ悲しみを共にされる姿が書かれています。力を振りかざして弱い人々を苦しめる者たちをイエス様は叱っておられます。神様が人（イエス様）となって私たちの隣人となり、自ら「愛する」ということを示してくださいました。それで、私たちは神様から「愛されている」ことを知り、「愛する」ということも知ることが出来たのです。神様が大切なひとり子、イエス様を私たちのために贈ってくださったというクリスマスの出来事は、実は神様の私たちへの「愛」そのものなのです。それで、クリスマスの出来事は、わたしたちにとって嬉しいお知らせなのです。

どんな時にも神様の愛は変わることがありません。どのような私も神様は愛してくださっています。それで、私たちは自分を大切にすることができます。「あなたは大事！」と言ってもらえたら自暴自棄になってしまいそうな自分にストップをかけることができます。私たちが自分を愛し、大切にできれば、同じように私たちの隣人を愛することができる。それはやがて、世界中から悲しみや憎しみを消していく力になっていく。神様はそれを望んでいらっしゃるのです。今年もクリスマスを迎えるこの時に私たちはクリスマスの嬉しいお知らせを思い出しましょう。私たちひとり一人の心の中に、イエス様をお迎えしましょう。「いつもどんな時にも私はあなたと共にいる！」と約束して下さる神様の言葉と共に。

あいりん、この1ねん

2016. 3月 第61回卒業式

今年も愛隣っ子を送り出しました。そう組の31人の仲間たちが巣立っていきました。幼稚園中のみんなを楽しませてくれた力を小学校でも発揮しているかな？同じ3月、吉田麻友先生が退職しました。クローバー組、ゆめ組の担任でした。今は、東京で小さい子どもたちとお母さんたちを支援する仕事で頑張っていますよ。

2016. 4月

大きい組の名前は「カンガルー組」になり幼稚園の新しい1年が始まりました。担任は鈴木仁美先生・矢内先生・野田先生です。ばら組の担任は田久保先生・梶野先生・川村先生、たんぽぽ組は宮越先生・濱田先生（新任）、大嶋先生が担任、ただいまルームは岡田先生、つぼみ組は山中先生、西尾先生、他のスタッフは変わらずという職員体制でスタートしました。

～新任の先生の紹介です～

たんぽぽ組の濱田有紀先生が今年、愛隣幼稚園の先生の仲間に加わりました。で、幼稚園の中にゆき先生が2人になって、少しややこしいことになっています。今年の年長のページェントではピアノを担当します。

さて全園児99名（現在も99名）と大人たち、今年もいっぱい笑ってよい仲間になっていきたいと思えます。

地引優子先生、勤続20年表彰！

6月1日の千葉市幼稚園教育振興大会で、地引優子先生が勤続20年の表彰を受けました。優子先生自身が愛隣の卒業生。そして愛隣の職員として20年。担任した子どもの最年長者は33歳になりました。毎年のように武勇伝を残してくれる優子先生にこれからも期待したいと思います。（実は今年はまだ皆様にお伝える事件がなく、残念です！）

新しい住人は金魚

春から新しい住人が増えました。3月にお引越した、かのちゃんちの2匹の金魚です。この金魚、水槽の前を誰かが通っただけで「餌くれ〜！」と大暴れ。水槽から飛び出すんじゃないかと心配になるほどです。最初はこの催促を無視できず、言うなりになってご飯をあげていましたが、現在は、金魚の健康を第一に考え、食事制限実行中です！

天候不良の1年でした。

地球温暖化?!の影響でしょうか。今年の愛隣の庭はいつもと違っていました。枇杷とみかんだけは豊作だったのですが、じゃがいももさつまいもも、畑の野菜が全般的に不作でした。去年はルビーのような実をつけたやまももはほとんど実をつけず、売るほど採れて、売れるほど美味しい柿も今年は全くというほど実がありませんでした。私たちがガッカリでしたが、カラスたちはもっとガッカリしたことでしょう。来年に期待します。

2016年の運動会は2回戦

今年の秋は雨続き。運動会の日も雨の予報。それで小雨決行の一斉メールを送り、一部競技を除き何とかリレーまで終えることが出来ました。残った野外劇は次の週の金曜日に行い、2日間に亘った運動会が終了となりました。卒業生種目に集まってくれたみんなには「ごめんなさい！」来年また来てください。でも、雨の中、カンガルー組のリレーをはじめ、幼稚園の仲間たちを応援してくれてありがとう！毎年、そうやってみんなが力をもらっています。来年もまた、よろしく願いいたします！